

## 令和3年度 久慈川・那珂川洪水予報業務に関する説明会

### ●概 要

久慈川及び那珂川では、本格的な台風シーズンを迎えるにあたり、関係機関の皆様に出水時に重要な情報となる「洪水予報」の持つ意味合いや発令のタイミング等について説明する場として、「洪水予報業務に関する説明会」を常陸河川国道事務所と水戸地方气象台との共同で実施した。

●実施日 令和3年7月1日(木) 14:00～15:20

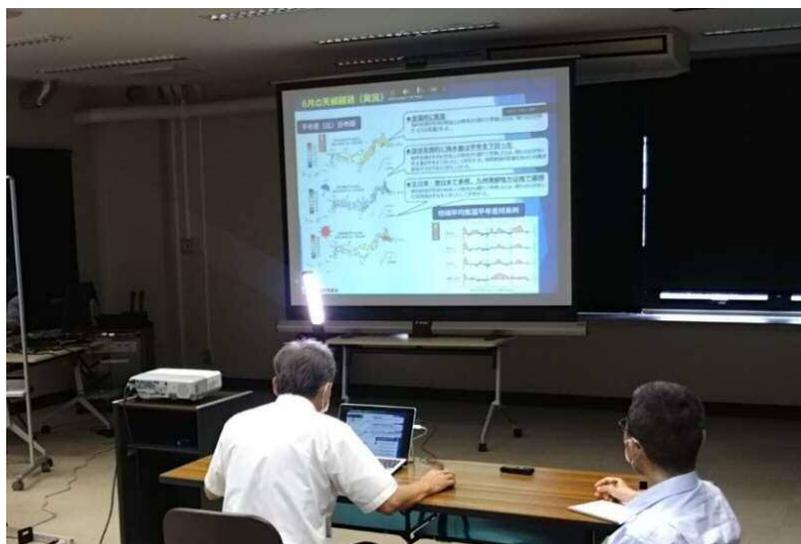
●場 所 新型コロナウイルスによる感染症拡大防止としてWeb説明会を開催

●主 催 常陸河川国道事務所、水戸地方气象台

### ●出席機関

関東農政局、茨城県河川課、茨城県防災・危機管理課、茨城県農業技術課、茨城県下水道課、水戸土木事務所、常陸太田工事事務所、常陸大宮土木事務所、高萩工事事務所、日立市天気相談所、IBS茨城放送、水戸コミュニティ放送株式会社、NHK水戸放送局、毎日新聞水戸支局、茨城新聞社、朝日新聞水戸総局、読売新聞水戸支局、日本農業新聞社、東京電力パワーグリッド(株)茨城給電所、NTT東日本茨城支店、茨城交通株式会社、JR東日本水戸支社、茨城県トラック協会、茨城県高圧ガス保安協会、東部ガス株式会社茨城支店、日立電鉄交通サービス、日本赤十字社茨城県支部、日本気象協会、河川情報センター（順不同）

### ●開催状況(Web説明会[ ZOOM利用 ])



## ●次 第

- ・挨拶
- ・報告及び説明事項
- 洪水予報業務について
- 河川情報の提供に関する取り組みについて
- 防災気象情報の改善について
- 向こう3ヶ月の天候の見通しについて
- その他

## ●説明内容

### ○洪水予報業務について

- ・洪水予報、避難行動に関する情報の提供

雨量や水位情報を基に洪水予報や水防警報が発表され、テレビ・ラジオ、インターネット、防災無線等を介して情報が伝達されることにより、避難行動や水防活動の対応へつながっていることについて説明。

- ・今年度の変更点

災害対策基本法の改正により、防災用語をより分かり易く改善している変更点の説明。

警戒レベル3は避難準備・高齢者等避難から高齢者等避難へ。

警戒レベル4は難勧勧告、避難指示（緊急）から避難指示への一本化へ。

警戒レベル5は災害発生情報から緊急安全確保に変更。

- ・久慈川及び那珂川の基準水位について

昨年度は大きな出水もなく、昨年度からの基準水位の変更点は無し。

- ・洪水予報（発表内容、文例）の変更点について

洪水予報における警戒レベルと標題（氾濫注意情報から氾濫発生情報までの発表情報）は変わらないが、災害対策基本法の改正に伴い、洪水予報の主文の記載内容の一部（住民が取るべき行動）が変更された。

### ○河川情報の提供に関する取り組みについて

- ・国土交通省「川の防災情報」ホームページのリニューアル

住民の方々が自ら河川の氾濫の危険性を知り、的確な避難行動などに役立つように、利用者目線に立った新しい「川の防災情報」ホームページへとリニューアルした内容の紹介。

- ・水害・土砂災害情報の一元化

情報発信者がそれぞれ提供していた情報を一目で確認できるよう、ポータルサイトにおいて、「河川情報」「水害・土砂災害情報」等を一元的に集約して提供。

また、アクセス集中回避として、NHKとYahoo!の防災サイトへリンクを紹介。

・危機管理型水位計及び簡易型河川監視カメラの設置

洪水時の水位観測に特化した低コストの水位計(危機管理型水位計)を設置し、近隣住民の避難を支援するもので、観測結果はウェブサイトを提供していることを紹介。  
また、リアリティーのある河川の状況を画像で伝えることで、住民の適切な避難判断を促すように簡易型河川監視カメラを設置しており、その映像はウェブサイトを提供していることを紹介。

・防災用語ウェブサイトの開設(令和3年6月29日)

発信者と伝え手で防災情報への認識を共有化するため、パソコンやスマートフォン等より、誰でも防災情報に用いられる防災用語の意味や伝え方などが検索できる「防災用語ウェブサイト」の開設を紹介。

### ○防災気象情報の改善について

・令和3年6月17日運用を開始した線状降水帯に言及した顕著な大雨に関する情報の解説。

線状降水帯による大雨が発生している場合は、危機感を高めるために知らせてほしいという要望があり、大雨による災害発生の危険度が急激に高まっている中で、線状の降水帯により非常に激しい雨が同じ場所で降り続けている状況を「線状降水帯」というキーワードを使って解説する情報。この情報は警戒レベル相当情報を補足する情報で、警戒レベル4相当以上の状況で発表。

・顕著な大雨に関する情報の運用開始後、初めて発表した沖縄本島気象情報の紹介。  
『本島北部では、線状降水帯による非常に激しい雨が同じ場所で降り続けています。命に危険が及ぶ土砂災害や洪水による災害発生の危険度が急激に高まっています。』との文章情報及び、『雨雲の動き』(高解像度降水ナウキャスト)、『土砂キキクル』を掲載した図情報を紹介。

・顕著な大雨に関する情報が対象とする線状降水帯や線状降水帯のメカニズムを解説。  
大雨による災害発生の危険度が急激に高まっている中で、線状の降水帯により非常に激しい雨が同じ場所で降り続けている状況を「線状降水帯」というキーワードを使って解説できるよう、顕著な大雨に関する情報の客観的な発表基準を設定していることの解説と線状降水帯のメカニズムを解説。

### ○向こう3ヶ月の天候の見通しについて

「季節予報」「予想される海洋と大気の特徴(7月～9月)」「関東甲信地方の3ヶ月予報」に関して解説。

以上